Claude Community 資料の型

表紙から出典まで、毎回同じに作るための見本帳

2026 年 11 月 6 日　岡本 賢

CLAUDE COMMUNITY TOKYO

アンバサダー個人による独自制作資料です。公式資料ではありません。

目次

はじめに 3
- この見本帳について 4
- 公式資料は、六つの型に分かれる 5

五つのパターン 6
- 何を作るかで、型を選ぶ 7

部品 8
- 表紙 9
- 目次 10
- はじめにと要点 11
- 章扉 12
- 本文と図 13
- 引用と依頼文 14
- 記入欄 15
- 表 16
- 注意書きの囲み 17
- コード 18

作り方 19
- Claude への頼み方 20

おわりに 21
- 型は、使いながら育てる 22
- 出典 23
- 引用するとき 24

この見本帳は report-kit の guide 形式で組んだ。各ページが、その部品の実物になっている。
アンバサダー個人による独自制作資料です。公式資料ではありません。

はじめに

はじめに

この見本帳について

表紙、目次、本文、おわりに、出典を、毎回同じ形で作る。

Claude Community の資料を、Anthropic の公式資料と同じ作法で作るための見本帳です。原稿を Markdown で書き、コマンドを一つ打つと、この形の PDF ができます。

型を決める前に、Anthropic の公式 PDF を 155 本集め、手元の公式資料と合わせて 175 本を同じ物差しで測りました。判型、本文の大きさ、表紙の色、目次や謝辞や出典の有無と位置です。この見本帳の決まりは、その測定から来ています。

この見本帳そのものが、冊子の型（guide）で組まれています。表紙、2 ページ目の目次、章扉、本文、おわりに、出典、裏表紙は、どれもその部品の実物です。

はじめに

公式資料は、六つの型に分かれる

表紙の色を見れば、どの型かが分かる。

公式資料の主な型（175 本の測定から）

- **研究報告（14 本）**　セージの表紙、縦の US Letter。目次はなく、謝辞は表紙。最後に引用のしかたと出典。
- **Claude ガイド（17 本）**　テラコッタの表紙、横の US Letter。2 ページ目に必ず目次。章扉、Resources、裏表紙。
- **白の報告書（52 本）**　白の表紙に大きな題。System Card と RSP。要約は 52 本中 20 本、付録は 52 本中 32 本。

このほかに、調査レポート（ベージュの表紙）、研究論文（LaTeX）、一枚もの（AI Fluency の 4D など）があります。Claude Community の資料は、このうち研究報告と Claude ガイドを主な手本にします。

五つのパターン

五つのパターン

何を作るかで、型を選ぶ

読み手が何をするかで、形が決まる。

五つのパターンと形式

- **実践ガイド**（report）　原則を順に読み、その場で書いて使う。
- **読み物**（report）　頭から順に読む。長いものは章扉で区切る。
- **使い方の冊子**（guide）　使い方や事例を、要る所から拾い読みする。
- **活動・調査の報告**（report）　数字と図で伝え、引用してもらう。
- **1〜2 ページの要約**（brief）　当日に配る。要点と図が一つ。

実践ガイド　研究報告の型です。表紙（セージ）、冒頭の問いと要点、原則ごとの節と図、引用のしかた、出典の順に並びます。目次は置きません。例は「ハッカソンのアイデアの作り方」です。

読み物　研究報告の型に章扉を足します。表紙（セージ）、章だけを並べた目次、章扉つきの章、出典の順に並び、本文は 1 段です。絵は章扉にだけ置きます。

使い方の冊子　Claude ガイドの型です。表紙（テラコッタ）、目次、はじめに、章扉つきの章、出典、裏表紙の順に並び、本文は横長の 2 段です。手描きの絵は章扉にだけ置き、本文に入れる画像は画面や図に限って、何を示すかを題に書きます。この見本帳も、この型で組んでいます。

活動・調査の報告　研究報告の型に、グラフと調べた範囲の節を加えます。謝辞は表紙の下に置きます。

1〜2 ページの要約　表紙を付けず、題と要点と図を一枚にまとめます。2 ページを超えると、組み上げの検査で止まります。

部品

部品

表紙

型によって、色と置くものが決まっている。

冊子の表紙はテラコッタの全面です。公式の Claude ガイド 17 本は、どれもテラコッタの全面に、左上のセリフ体の題と副題、左下のロゴという配置でした。この型ではロゴの位置にスパークと CLAUDE COMMUNITY TOKYO を置きます。

報告の表紙はセージの全面です。題の下に細い罫を引き、「公開」と「著者」を 2 列に並べ、下にこの資料についての短い文を置きます。公式の研究報告 14 本は、すべて表紙の下に謝辞を置いていました。

どちらの表紙にも、Anthropic のロゴは使いません。使うのは、Claude Community の公式キットにあるスパークと書体だけです。

部品

目次

冊子では、2 ページ目に必ず置く。

この見本帳の 2 ページ目が、目次の実物です。左上に「目次」、章と節の 2 段、右端にページ番号を置きます。点線や罫は引きません。

目次の番号は、組み上げのたびに実際のページから取ります。検査では、目次の番号と、その節が始まるページが一致しているかを確かめます。

研究報告の型には、目次を置きません。公式の研究報告 14 本に、目次のあるものはありませんでした。

部品

はじめにと要点

冊子は「はじめに」、報告は「要点」から入る。

冊子は、目次のすぐ後に「はじめに」の章を置きます。公式のガイドでは、17 本中 9 本に Foreword があり、目で確かめたものは、どれも目次の次のページから始まっていました。

報告は、表紙の次のページで冒頭の問いを一つ書き、要点を箇条書きで並べます。公式の研究報告では、14 本中 12 本が 2 ページ目に要点を置いていました。

要点

- 冊子は、目次の次に「はじめに」を置く。
- 報告は、2 ページ目に冒頭の問いと要点を置く。
- どちらも、最初の数ページで全体が分かるようにする。

部品

章扉

色の地に挿絵を置き、左下に章の名前。

冊子と読み物の章の始まりには、全面の章扉を置きます。地はくすんだ色で、挿絵があれば大きく置き、左下に章の名前を書きます。読み物の章扉は縦のページで、挿絵を中央に置きます。この見本帳の章扉は、挿絵なしの例です。

挿絵を使うときは、平らな色の地に描いた絵を選ぶと、地の色が章扉の全面にそのまま広がります。手描きの挿絵は章扉にだけ置きます。公式のガイド 17 本でも、手描きの絵が出てくるのは章扉だけでした。

部品

本文と図

本文は 2 段、図は段の上に置く。

冊子の本文は横長の 2 段組です。節ごとにページを改め、左上に章の名前、その下にセリフ体の見出しと一行の導入文を置きます。

冊子の一節の並び

- 左上に、小さく章の名前。
- その下に、セリフ体の見出しと一行の導入文。
- 本文は 2 段組。挿絵は段の上に置く。

報告の本文は 1 段組で、図はベージュの枠に入れてページの上端に置きます。図の下には「図 n」と注を付けます。

部品

引用と依頼文

人の言葉は出典つきで、AI への依頼は枠に入れる。

人の言葉を引くときは、原文、訳、出典の三つを並べます。出典のない引用は、組み上げの段階で止まります。

> an idea is nothing more or less than a new combination of old elements.
>
> 訳：アイデアとは、すでにある要素の新しい組み合わせにほかなりません。
>
> James Webb Young『A Technique for Producing Ideas』（Farnam Street 掲載の引用で確認）

読者がそのまま AI に送る文は、細い枠に入れます。引用ではないので、出典は付けません。

AI への依頼

私の好きなものについて、一度に一問ずつ質問してください。最後に、私が使った言葉をそのまま並べた一覧を作ってください。

部品

記入欄

読者がその場で書く行は、空欄を線で引く。

原稿で全角の下線を続けて書くと、その長さの線になります。配った紙に、その場で書き込めるようにするためです。

その場で書く一行

私は＿＿＿＿の場面で、＿＿＿＿をするとき、＿＿＿＿を確認し直しました。

部品

表

見出しの行に色を敷き、細い線で区切る。

表は段の幅に収めます。冊子では見出しの行をベージュにし、細い線で全体を区切ります。報告では灰色の線と角の丸い枠で囲み、下に「表 n」と注を付けます。公式のガイドは 17 本中 14 本、研究報告は 14 本中 5 本が表を使っていました。

部品ごとの形

部品	冊子	報告
表	ベージュの見出し行と細い線	灰色の線と角の丸い枠、下に表 n
注意書きの囲み	薄い地の角の丸い囲み	同じ形
コード	色地の箱と等幅の文字	引用するときの箱と同じ地

部品

注意書きの囲み

本文の流れから外れる助言は、薄い地に入れる。

公式のガイドは「Pro-tip:」や「Solution:」のような助言を、薄い地の角の丸い囲みに入れます。見出しは立てず、太字の短い言葉を文の頭に置きます。

ヒント：囲みは 1 ページに一つまでにすると、本文の流れが途切れません。

数字だけを大きく見せる部品は、公式資料 31 本のどこにもありませんでした。この型にも入れていません。

部品

コード

コードは色地の箱に、そのまま写せる形で置く。

コードは等幅の文字で、書いたとおりに組みます。言語を書くと、文字列は緑、キーワードは紫のように色が付きます。公式のガイドと同じ配色です。

```
def greet(name):
    # あいさつを返す
    return f"こんにちは、{name}さん"
```

作り方

作り方

Claude への頼み方

何を、誰に、どの形でを伝えれば、原稿から PDF まで進む。

Claude Code に「Claude Community の冊子で」「報告の型で」「読み物にして」と頼むと、資料づくりの入口からこの型へ進みます。Claude が原稿を書き、コマンドを一つ打って PDF を作り、検査の結果と一緒に見せます。

頼み方の例

> Claude Community の冊子で、Claude Code の使い方をまとめてください。読み手はハッカソンの参加者です。章は五つで、章扉ごとに挿絵を一枚使います。

できた PDF の隣に、全ページの一覧画像と検査の記録ができます。直したいところは言葉で伝えれば、原稿を直して組み直します。

おわりに

おわりに

型は、使いながら育てる

新しい部品は、公式資料で確かめてから足す。

この型は、公式資料の測定から始まりました。新しい部品が必要になったら、まず公式資料に同じものがあるかを確かめ、あればその形に合わせます。

集めた資料と測り方は、次の出典に置いています。資料を足して同じコマンドで測り直せば、型の根拠も新しくなります。

おわりに

出典

岡本 賢（2026）「Anthropic 公式資料の収集」。2026 年 11 月 6 日時点で公開されていた PDF 155 本（研究・報告 63 本、安全性・方針 52 本、事業・教育・ガイド 40 本）。手元に保管、非公開。

岡本 賢（2026）「Anthropic 公式資料の型の研究」。研究ノート、非公開。

Anthropic Institute（2026）「How Employment is Changing at Anthropic」。2026-10-16

James Webb Young（1940）『A Technique for Producing Ideas』。引用は Farnam Street の掲載で確認。https://fs.blog/a-technique-for-producing-ideas/

おわりに

引用するとき

```
@misc{okamoto2026templates,
author = {岡本 賢},
title = {Claude Community 資料の型},
howpublished = {Claude Community Tokyo},
year = {2026},
month = nov
}
```

CLAUDE COMMUNITY TOKYO